

『命を大切にする』とは』

福島市立平野中学校 二年 坂本^{さかもと} 陽愛^{ひな}

「どうして命は大切にしなければいけないの。」

これは私がときどき、ふと考えることだった。先生や親を含め私のまわりにいる大人は「命を大切に生きて生きなさい。」「命を守ることが最優先。」と言う。命なんて目に見えるものではないのに、どうやって大切にしていくなのか。そもそも命を大切にすることでどういうことなのか。考えれば考えるほどわからなくて答えまでにはたどりつかない。しかし、いつも頭の中をよぎる考えが一つだけある。それは、もし命を失ったとしてもずっと悲しみ、辛い思いをする人はいないのではないかということだ。

頭の中がこの疑問でいっぱいの時、母親と一緒に買い物に出かけたことがあった。いつも通り、母の運転する車でお店へと向かう。しかし、その時はいつも通りではなかった。私はお店に向かっている途中で衝撃の光景を目にした。それは交通事故の現場だった。フロント部分が大破した二台の車。道路にくっきりと残るブレーキの跡。そのまわりを取り囲むように停まっている救急車とパトカー。その現場にある一つ一つが事故の恐ろしさを物語っていた。

私はその光景を目にした時、驚きで言葉が出なかった。私が普段見ていたニュースとは全然違っていた。そして、一瞬にして幸せや命が失われてしまうかもしれないと思うと怖くて仕方がなかった。

私は家に帰ってから、「交通事故」という言葉でネット検索をした。すると、今までに起きたたくさん交通事故がでてきた。中には、飲酒運転や高齢者の運転によって何の罪もない人たちが亡くなるという事故もあった。

そして、その事故により亡くなられた方の遺族が大変辛く、悲しい思いをしていることを知った。そしてその思いは何年経ってもずっと続いているという。私は何よりも心を痛めたのは、その被害者含め、ご遺族への誹謗中傷だ。なぜ悲しく、辛い思いをした人がまた辛い思いをしなければならないのか。私はやるせない気持ちでいっぱいだった。

このようなことをこれからなくしていくにはどうすればよいのだろうか。それは「命の大切さ」を知ることなのではないだろうか。

私自身もわからなかった命の大切さ。そして命を大切にすると何か、どうして大切にしなければいけないのか。その答えがようやく見つけた気がした。それは、「自分のまわりの人を悲しませないようにする」ということだ。

記事を読んでいるだけで悲しい気持ちになった私よりも、被害者そしてその遺族の人のほうがもっと悲しい思いをしているはずだ。だから、自分のまわりの人たちを大切に思うことは命を大切にすることにつながると考えた。

「命」は目に見えないからこそ、大切にしていくなさ。私は、そんな命を大切にしながら生き続けると同時に「命の大切さ」を知った今、私はその「命の大切さ」を伝え、誰一人悲しむことのない平和な社会をめざしていきたい。